



会田 誠

新国立競技場の建設問題について話す会田誠さん

あいだ・まこと 美術家。1965年新潟県生まれ、東京芸大大学院修了。昨年3月末までの個展「天才でごめんなさい」は4カ月余で49万人を动员する一方、過激な表現が物議を醸した。

新競技場は僕の見た感じでは相も変わらずでかさ、迫力

な感じがしちゃうんです。

せんが前の東京五輪や大阪万博だった。また東京に五輪が来そ「まだやるぜ」といふのは何か違うんじゃないかな。たどれるならアメ車のよつに燃費悪いけどデラックスなオープンカーで乗り付けるみたいな、そんなマッショ

いと思つタイプ。改修案のよ

しチラチラとネットで見ただけですが、「一市民としてあの案でなくとも良いと思った。美術家の村上隆さんのように（建て替える）ザハ案でいいじゃないかという人が多くいるのも知っています。五輪が来たらにはガーンと派手にやってなんぼだろう」と、そう

た。建替えではなく今ある競技場を改修して使うことに賛同している。(森本智之)

何せ建築に詳しくないです

わられる会田誠さんもその一人。建替えではなく今ある競技場を改修して使うことに賛同している。(森本智之)

新国立競技場 建て替えより改修

中身で勝負の賢さを



2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場のイメージ

日

本スポーツ振興センター提供

勝負するという、もっとグレーバーな感じを示してほしい。五輪で世界の注目が集まる

ことを日本が利用しない手はない。でも攻め方がどうなのか。今回の五輪は、国が膨張していく機運に後押しされた

前回と同じではない。新興国

は食えはすぐ身長が伸びていいく思惑みたいな国。(ザハ案)は「そういう若い者に負けるもんか」って老人が急にまた重いバーベルを上げようとしているように見えます。

金より知恵出して
美術家としては自立った方が良いし、ライバルに嫉妬させれるようなものも造った方が良い。でも金をかけるなら知恵をかけてほしい。サイズにこだわらなくて印象に残るものでできれば、それがメディアに乗って効果的にアピールできるんじゃないかな。

以前、NHKの歴史番組で、城の石垣を造っている職人集団を取り上げていた。その技術がすごい手作業なのにマグニチュード8でもびくともしない。例えばそんな技術を使えば、僕が五輪取材に来た外国人の特派員なら飛び付きます。ドバイの人たちが「ああ俺たち」でかさばかり競争していただけで、それが「ああ俺たち」でかさばかれていたな」と反省するような何かがでければ、ある種の勝ちだと思つんです。

先日の東京都議会で女性議員が質問中に受けた野次の下品さと卑劣さは、改めてこの国の支配層の文化程度を世に広げ示すものだった。事件はたちまち海外にも伝わり、女性を蔑視する日本の古い男性社会に強い批判が浴びせられている。

自民都議が発言を認めて大波小波

謝罪したが、厄介なのは、叩かれても叩かれても、男性的社会の「本音」は潜行していくつかまた、より一層暴力的な言説となつて噴出する

力が必要だろ。

女たちよ、啖呵を切れ

るであろうことだ。それが差別の本質である。今の若い世代が社会の中に心になれば男女関係の認識はかなり変わるだろうが、

幸い日本には、中世の狂言の「わわしい女」たちと一緒に暮らすような國のかたちは素人がながら疑問があつた。日本はアジアでも近代化を

バリバリやつた国で、その見

そこだけ中身の性能で

まだまだ時間がかかる。なんだから今まで男への思いを書き前に、その場で切りき口説いたりするが、狂言の女たちは常にリアルで前向きなのだ。

彼女たちの多くは自身の生業を持ち、ぐうたらの夫には「おのれのよつな男はそこらの竹藪から何人でも蹴り出せる」と罵つて憚らない。実際に痛快である。女たちよ、泣くな、啖呵を切れ。(太郎冠者)